

## 仙台市図書館振興計画2022中間見直し（中間案）についてのパブリックコメントの実施結果

- 1 意見募集期間  
令和7年12月25日（木）～令和8年1月24日（土）
- 2 意見提出者数及び意見の件数  
(1) 意見提出者数 3名  
(2) 意見件数 11件
- 3 意見の内容及び本市教育委員会の考え方

No.	項目	頁	意見	本市教育委員会の考え方
1	3. 基本理念と4つの方向性 (1) めざす図書館像	P8	「様々な理由で困難を抱える方に対し、知識や技能を習得する機会の充実や、より多様で豊かな生き方・暮らし方をめざすマルチステージの人生において、誰もが生涯にわたりいつでも学び続けられる環境が求められています。」とあるが、就職や転職に役立つような資格取得の際、特に教材費が負担となっているので、資格試験取得のための最新の試験教材を置いてくれると助かる。	誰もが生涯にわたり学び続けられる環境を整備していくことは公共図書館として重要な役割であると考えます。資格取得関連資料は、書き込みなどによる汚損・破損の恐れがあるため、電子図書館で対応しております。今後も本計画に記載のとおり、「あらゆる世代の学びを日常的に支える資料の収集・整理・保存・提供」の取組みにおいて、より多くの方が学びやすい環境の提供に努めてまいります。
2	(2) 図書館像実現に向けた4つの方向性	P10	方向性4について、専門家として職員に求めるのなら、正規雇用で人材が流出していかないようにしてほしい。	質の高い図書館サービスを提供するために、専門的な知識や技術を持つ職員の存在が重要であることから、今後も業務に適した職員の配置と研修の実施に努め、資格の有無にかかわらず職員の資質と専門性の向上を図ってまいります。
3	(2) 具体的な施策の見直しにあたっての業績評価	P14	図書館の自己評価について、どうしてそのような評価にしたのかがわからないので、特に△が付いたものについて解説が欲しい。	方向性ごとに自己評価を行うにあたり、これまで十分な実績を上げられていない施策項目について△「さらなる取組みが必要である」と評価し、「課題」を記載しておりますが、評価の趣旨が明確となるようご意見を参考に、本文に追記いたします。
4		P15	方向性4について、視聴覚資料の購入ペースを急ピッチで早急に上げる事を強く望みます。物価高が終わらない状態や景気や治安が深刻な状態になっている中、物価高対策をしているとは思えないので、利用者が満足する方向性をきちんと示してほしい。	視聴覚資料は再生機器の生産終了やディスクの市場規模の縮小、映像や音楽のデジタル配信など情報環境が変化していることから、本計画においても長期的視野から公共図書館における視聴覚資料の収集・保存・提供のあり方の検討やメディアの変遷を踏まえた資料構成の見直しについて記載しております。ご意見を参考に、市民の多様なニーズに応じたサービスの充実に努めてまいります。
5	(5) 主な施策 方向性1 地域・市民に役立つ図書館となるために	P18	仙台市文学館ともっと連携してイベントや図書館活用の推進等していくべき。文学に明るい人むけの印象、もっと子ども向けや仙台ゆかりの現役作家なども取り上げて行って欲しい。	本計画でも多様な専門性を持つ社会教育施設等と連携して、新たな学びを創出し、市民の生涯学習活動を支援すると記載していることから、仙台文学館との連携についても検討してまいります。

No.	項目	頁	意見	本市教育委員会の考え方
6	(5) 主な施策 方向性3 市民一人ひとりに 利用しやすい図書館となるた めに	P22	若林区沿岸地域（荒浜・井土地区等）は、東日本大震災以降、復興まちづ くりが進められてきた一方で、日常的な文化・学習環境の充実については 課題が残されている。特に、図書館サービスは、・最寄りの図書館まで の距離が長いこと・高齢者や子ども、交通手段の限られた住民にとって利 用のハードルが高く、沿岸地域に暮らす住民が等しく読書・学習・情報に 触れる機会が十分とは言えない状況にある。図書館は、単なる貸本の場 にとどまらず、・生涯学習の拠点・子どもの読書活動の推進・地域コミュ ニティの形成・災害の記憶や地域資料の継承といった重要な役割を担う 公共施設であるので、若林区沿岸地域における図書館サービスの拡充につ いて、以下のような施策をご検討いただきたい。若林区沿岸地域に暮らす 人々が、住む場所によって文化的・教育的機会に差を感じることはないよ う、図書館サービスの一層の充実を強く希望します。  1. 移動図書館の巡回回数・滞在時間の拡充 2. 沿岸部の公共施設等を活用した図書館サービススポット（予約本受取・ 返却拠点等）の設置 3. 子ども向け読書活動や地域住民向け講座等の出張型図書館事業の実施 4. 将来的な常設型図書館機能（分室・小規模拠点等）の可能性についての 調査・検討	令和5年6月に地下鉄東西線荒井駅構内に荒井サービススポットを開設 し、多くの方に利用していただいているところです。文化的・教育的機会 の公平性という観点も踏まえ、身近な地域で利用できる移動図書館の運用 のほか、アウトリーチ型事業による図書に親しむ機会の創出など、方向性 3に掲げる「誰もが使いやすく、どこに住んでいても情報が身近に届く、 市民一人ひとりに利用しやすい図書館」を目指して取組みを進めてまいり ます。
7				
8				
9				
10	(5) 主な施策 方向性3 市民一人ひとりに 利用しやすい図書館となるた めに	P22	分室・サービススポットや移動図書館のおかげで、フレイル防止になっ ていると思う事があった。非常に助かっているので、今後も継続をお願い したい。	分室・サービススポットや移動図書館における図書館サービスの提供は、 これからの超高齢社会の到来を踏まえると仙台市図書館として重要な施策 と考えております。ご意見を参考にサービスの継続に努めてまいります。
11	(5) 主な施策 方向性4 自らの変革を進め る図書館となるために	P24	市民とともに図書館づくりをすることはいいが、ボランティアに頼りすぎ ないで欲しい。人口減少と昨今の物価高などで共働きや定年後の再雇用の 人も多いうえ、人口も減少していつている。きちんと雇用して確保してい く必要があると考える。	ボランティアの役割・分担・目的を明確にした市民協働体制を進めるとと もに、ご意見を参考に、引き続き良好な図書館運営に向け、必要な職員の 配置に努めてまいります。